

## 平成 25 年度第 2 回佐倉市公民館運営審議会会議要録

日時：平成 25 年 10 月 24 日（木）午後 2 時 00 分～午後 4 時 30 分

会場：和田公民館

出席者：中村次克委員、鷹野千恵子委員、酒井孝子委員、大野直道委員、高梨直子委員、  
浅井俊彦委員、奥津友子委員、慶田康郎委員、坪井浩委員、芦崎徹委員、  
川村健委員、福山重雄委員、松井強委員（13 人）

事務局：中央公民館長・小林雅美                      和田公民館長・木村武雄  
弥富公民館長・井筒弘行                      根郷公民館長・飯塚昇一  
志津公民館長・檜垣幸夫                      臼井公民館    ・塚本貞仁副主幹  
社会教育課長・江波戸寿人  
中央公民館    ・石井肇主幹、猪股佳二副主幹、森田主査補

---

開会 14：00

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

### 3 議事

#### (1) 平成25年度公民館事業中間報告

平成26年度公民館事業に向けて

資料：「平成 25 年度公民館事業中間報告」に沿って、中間報告と来年度事業にむけて各  
公民館長の考え方を報告。（中央公民館・和田公民館・弥富公民館・根郷公民館・志津  
公民館・臼井公民館）

#### 慶田委員長

平成 25 年度公民館事業中間報告について、中央公民館から順にお願いします。中間報告  
と平成 26 年度公民館事業に向けて各館の考えを続けて報告していただきたい。

#### 小林館長（中央公民館）

今年度の中央公民館事業の状況についてご説明いたします。

平成 25 年度公民館事業中間報告の中央公民館事業をご覧ください。

平成 25 年度の中央公民館の事業でございますが、資料にございますとおり、家庭教育、  
青少年教育、成人教育、団体育成、広報活動について計画どおり実施しているところで  
ございます。

家庭教育では、2歳児と保護者を対象といたしまして、「2歳児親子あそび教室」を6月  
と7月の2か月間で計5回計画し、計画通り実施したところでございます。この事業で  
は、親が遊びをとおして、幼児の自主性と豊かな心を育てあげることができるよう、1  
0組20名の児童と保護者が参加しております。ハンカチやタオル等の身近な物を使っ  
た遊びや粘土・絵の具を使った遊び等を実施する中で、子どもの豊かな創造性の育成と  
親子の交流を行うことができました。また、小学生とその親を対象とした「親子で食育  
講座」を東金青年の家で実施し、子どもといっしょに調理することで、「食」の楽しさを

知っていただきました。これには、7組14名の参加がありました。

次に、青少年教育では、自然体感スクールとして「ジュニアカヌースクール」を印旛沼中央水路カヌー場で実施し、15名の参加者がありました。参加者には、千葉県カヌー教会の主催のカヌー大会に出場していただき、練習の成果を発揮していただきました。「子どもの居場所作り」では、小学生を対象として、公民館を利用しているサークルにお願いし、折り紙やいけばな教室、料理教室などを実施し、94名の参加がありました。また、夏休み期間中、小・中・高及び保護者を対象として、学習室2を自主学習の場として開放し、133名の利用がありました。昨年と比べ、11名の増となっています。年3回実施している小学生と保護者を対象とする「親子映画会」では、親子で楽しめるアニメ等を中心に行っていますが、第1回目は8月に音楽ホールで実施(シュガーラッシュ)し、ほぼ満席の状況でした。さらに、佐倉っ子塾共通講座として小学生4・5・6年生を対象とした「夏休み子供水辺探検ツアー」を行い、谷津の生き物や川の環境等について学んでいただきました。この講座には、18名の参加がありました。佐倉市・女子美術大学連携協働事業では、小学生20名を募集したところ、31名の公募があり、女子美術大学と相談のうえ、全員を受け入れ、美術大生の協力のもとアートを意識したモノづくりを体験していただきました。

次に、成人教育においては、佐倉学講座と市民カレッジ事業を実施しておりますが、佐倉学においては、「正岡子規「總武鐵道」から見えて来るもの」という講座を実施しており、2回講座で172名の参加がありました。市の環境保全課との共催事業である印旛沼公開講座「温故知新」は、現在までに3回実施しておりますが、161名の参加となっております。市民カレッジにおいては、天候の関係で視察日が変更になったものもありましたが、当初のカリキュラムにそって順調に実施がされております。

次に、団体育成では、中央公民館を利用する団体やサークルに対して、利用グループ懇談会(202団体)や調理室利用者懇談会(15団体)を実施し、利用団体間の交流と公民館活動のあり方、利用方法等について話し合いを行っています。また、社会教育団体や一般市民を対象とした16ミリ映写機操作講習会を実施しており、9名の参加者がございました。

次に、広報活動についてですが、主催事業等については、ホームページに情報を掲載して、市民の参加等を募っております。また、「なかま」の作成にあたり、一般市民から広く原稿を募集し、編集委員会を通して、毎月1回発行しております。

以上が、平成25年度中央公民館における事業の中間報告でございます。

平成26年度に向けての中央公民館の事業についてでございますが、約半分近くの事業を実施した中で、平成26年度においても同じような内容で実施していきたい事業や事業内容を少し検討して実施していきたい事業がございます。ほとんど事業では同じような内容で実施していきたいと思っておりますが、青少年教育の女子美術大学との連携事業については、女子大学生と小学生との交流もでき、楽しくアートについて学んでいただいていたことから、来年度も同じように小学生を対象に実施してまいりたいと思っております。また、事業の内容を再度検討していきたい事業といたしましては、「親子で食育講座」がございます。この講座を広報さくらやホームページに掲載し募集を行ったところですが、ほとんど公募がなく、子ども関連のサークルにピーアールをして何とか集まったという状況でした。講座の中身を次年度までに検討し、多く参加してもらえるような講座にしていきたいと思っております。

以上でございます。

木村館長（和田公民館）

それでは和田公民館の4月から9月までの事業内容についてご報告いたします。

はじめに、家庭教育ですが、親子遊びをとおして、幼児の自立のための親の役割などを考える場を提供する「子育て教室」を5月から6回実施しまして、延べ36組の親子が参加されました。

「楽しく家庭教育講座」は、ものづくり講座（アメリカン陶芸・組子コースター）や栄養講座など3回行う予定ですが、資料の10月16日は台風の関係で延期となっております。また、これ以外にも、毎月2回程度集まり、料理やものづくりなどを参加者同士で教えあうことも行っております。

次に青少年教育ですが、和田地区の小学生を対象に、「剣道教室」を毎週土曜日に開催しております。今年度は15人の児童が参加しております。

また、今月の20日に地域の協力を得ながら、異世代交流を目的として軽スポーツ大会を行っております。当日は雨天のため、和田小学校の体育館をお借りして、ユニカーやスカイクロスなどを行いました。参加者は小学生が34人で、その他に成人が58人、計92人が参加しております。

「夏休みおもしろ体験教室」は、子供たちに学校では味わえない体験をしてもらおうと企画しているもので、今年は陸上の専門の方に速く走るコツを学びました。また、昼食は自分たちで作ったものを食べ、午後の木工体験では本立て作りを行い、ものづくりの楽しさや道具の使い方などを学びました。14人が参加しております。

また、「佐倉っ子塾 料理教室」では、地域で採れた農畜産物を活かした子ども向けの料理教室を行っております。ハンバーグやホットポテトサラダ、シーフードの中華丼などを作っております。1回目は14人、今月の13日は資料には人数を記載しておりませんが、12人参加しております。

「佐倉っ子塾 伝統文化体験教室」では、和田はたおり保存会の指導による「はたおり体験」を7月20日に行い、12組の親子が参加されました。また、7月30日には、指で毛糸を編む「ゆび編み教室」を行い、7人の子供が参加しております。

次に成人教育の「ミニわらじづくり」ですが、これは携帯電話のストラップなどにご利用できるように、材料など現代風にアレンジした「小さいわらじ」を作っていただくもので、1月に行う予定です。

「ふるさと味工房」では、和田地区で採れた食材を利用した料理講座ですが、9月は和田の新鮮野菜を使った「夏野菜カレー」などを作り、8人が参加しております。

「楽しく学べる和田地域塾」では、和田の歴史や民俗などを学び、体験していただく講座ですが、下勝田の獅子舞の紹介やはたおり体験、地元陶芸家による陶芸製作、和田で採れた食材を利用した料理講座などを行いました。当日の天候等により参加が少ない回もありましたが、15人が参加しております。

次に、コミュニティ事業の「佐倉学び塾」ですが、朗読の講座を予定しております。朗読することにより、人に聞いてもらう喜びや、聞く楽しみを体験するとともに、新たに見えてくる登場人物の心、作者の思いなど学習するもので、1月から始める予定です。

次に「団体育成事業」ですが、まず和田小 PTA 民俗資料収集委員会では、毎年、和田地区で行われる「和田ふるさとまつり」で、竹馬やベーゴマ、紙鉄砲など、手作りの遊びを伝承する活動を行っております。また、12月には、和田地区の農家が栽培した古代米のわらを使って、「しめ飾り講習会」を実施しております。

次に、和田はたおり保存会ですが、毎週金曜日を基本に、「はた織り」の実演や綿や藍の栽培などを行っております。（25年度は会員10名）

また、和田地区青少年育成住民会議は日頃、青少年の健全育成を目的として活動して

おりますが、11月には地域の他の団体と協力して、「和田ふるさとまつり」という地区住民が集う行事を行い、子供も含め多数の方が参加しており、和田公民館では、この3団体の活動援助を行っております。

次に、広報展示活動ですが、公民館だよりを和田地区全世帯に配布しております。

また、歴史民俗資料室は「和田小PTA民俗資料収集委員会」が収集した稲作・畑作・養蚕・暮らしなどの道具やはた織り機など、約80点を展示しております。9月までの見学者数は、社会科見学で訪れた市内小学校10校を含め、1,222人となっております。また、団体の見学の際は、和田はたおり保存会によるはた織りの実演、小学校の保護者による説明ボランティアを実施しております。

来年度の事業につきましては、今年度の事業を基本に、和田の特色を生かしながら、更に内容を充実させてまいりたいと考えております。

#### 井筒館長（弥富公民館）

平成25年度 弥富公民館事業の中間報告をさせていただきます。

最初に家庭教育事業の「親子遊びのつどい」でございます。色々な遊びやものづくりを通して、人と人とのふれあいや子育てにおける家庭の在り方、子供へのかかわり方について学んでいただくため、2歳児・3歳児とその保護者を対象に募集を行いました。今年度は6組12人の参加者により、手遊びや簡単なおもちゃ作り、リズム体操やボール遊び、水遊びなど全12回のうち9月までに5回、実施いたしました。10月以降は思い出に残る作品作りやクリスマス会の企画・準備・開催、その他にわらべ歌や伝承玩具づくりなどを予定しております。

次に、青少年教育事業の「弥富剣道教室」では、剣道の稽古を通して心身の鍛錬、青少年の健全育成、異年齢の交流を図るとともに、千葉県指定無形文化財「立身流」を継承していくことを目的とし、毎週土曜日の午前中、弥富小学校の体育館において実施しております。現在は10人の参加をいただいておりますが、その中に弥富地区の子供の参加がないことがとても残念です。

次に「星空観察会」でございますが、5月・8月・11月の3回の開催を予定しております。5月は12人の参加をいただき、月の様子や春の星座を観察することができ、天体に対する興味が持たれたものと確信をしております。なお、8月につきましては残念ながら雨のために中止といたしました。

次の佐倉っ子塾「なんでも体験弥富塾」は弥富小学校の児童66人のうち40人が塾生として参加しており、郷土の生活習慣や自然体験を様々な方法により学習するとともに、地域住民とのコミュニケーションを深められる場として期待しております。プログラム内容も昔ながらの遊びを取り入れるなど、地域の特色を生かした学習や講師も地元の方をお願いしたり、地域の各種団体と共催での事業展開もしております。現在まで4回、身近にある素材を使ったゴム鉄砲などのおもちゃ作り、ザリガニ釣り、地元の食材を使ったクッキングなどを実施いたしました。それぞれの参加人数につきましては資料の通りでございます。なお、10月以降につきましては竹馬遊びや成木餅づくり、クッキングへの挑戦、バスでの見学など残り7回の実施を予定しております。

続きまして成人教育事業の「グラウンドゴルフ」でございますが、弥富地区高齢者クラブとの共催により、小学生から高齢者まで68人の参加をいただき実施いたしました。当日は高齢者クラブの方々から子供たちにルールや競技方法を丁寧に教えていただくとともに一緒にプレーを楽しんでいただき、異世代間の交流を図ることができました。

次に、今年度から始めました健康の保持増進を図ることを目的とした新規事業、「つまづかないためのストレッチ」では申込者14人、全6回を実施いたしました。普段、一

人ではなかなか体を動かす機会が少ないようで、講座終了後には新たなサークルが誕生し、参加者も徐々に増え、現在では20人以上の方が毎週1回、楽しく汗を流されています。

次の佐倉学体験講座「くらしの講座」でございますが、生活文化等を次世代に伝えるとともに、世代間を越えた交流を図り、郷土愛を育むことを学んでいただくために実施しております。6月のバス研修では自分たちの暮らす街との違いについて比較をしていただき、日常生活の中で感じていない点を再確認していただくことを目的として、他市の古い街並みや生活習慣について体験をするとともに新しいアウトレットの施設を見学いたしました。また、クッキングでは米粉を使ったシフォンケーキ作りを学ぶなど、参加者同士の交流、意見交換もなされておりました。今後の実施内容につきましては、弥富地区伝統料理の太巻きずしの技法習得、そば打ち、昔から伝わる布草履づくり、添加物を含まない安心安全なカステラづくりなどを予定しております。

次に「塩古ざるづくり」でございますが、これは昨年度からの継続事業でございます。当初の計画で、全7回を予定しておりましたが、前期として9月に3回、後期として11月に3回の全6回で実施をいたします。この事業は昔から伝わるざるづくりの技法を次世代に継承するため、材料作りから編上げまでを学ぶものでございます。材料については使用する部位によって異なることから、9月には新しい篠竹を加工しての材料づくりを行い、3日間、延べ24人の方が参加されました。11月にはさらに固くなった篠竹を採取・加工し、最終的には一人一人が塩古ざるを編上げるものでございます。

コミュニティ事業のさくら学び塾では、「ストレッチで農作業の疲れをいやしませんか」と題しまして、地域のニーズに合った事業となるよう、農作業等からくる腰痛などの予防や疲労回復に役立つためのストレッチを学んでいただける講座として、10月から3回実施をいたします。

つづきまして、広報活動の公民館だよりでございますが、5月には8地区の区長さんを通じて公民館だよりを全世帯に配布し、公民館事業の案内や募集、情報の提供を行いました。なお、お手元に配布いたしました「弥富公民館だより」の10月号と年明けに1月号の計3回、発行をいたします。また、主催事業のお知らせにつきましては、公民館の主催事業や地域行事の案内も含め、随時、地域回覧によりお願いしております。

弥富公民館の中間報告については以上でございます。

続いて平成26年度弥富公民館の事業に向けてでございますが、弥富地区は農村地区独特の雰囲気がございますので、従来同様に地域の文化、生活習慣等を次世代に継承していける事業を実施してまいりたいと考えております。また、弥富小学校の児童数の減少といった地域での深刻な問題点もございますので、今まで以上に地域の魅力を知っていただき、より一層の郷土愛を育むことのできる事業内容となるような事業計画、実施をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

#### 飯塚館長（根郷公民館）

平成25年度 根郷公民館事業について、中間報告をさせていただきます。

まず、家庭教育事業でございますが、ぼっぼちゃんくらぶでは、2歳児と保護者を対象として、絵本の読み聞かせや手遊び、マットやタオルを使った運動を通じ、幼児の創造力や豊かな心を育み、同年齢の友達と触れ合うことで、幼児期の人格形成を促すことを目的としています。

前・後期、それぞれ12回の講座を開催、後期は10月3日に開講し、現在9組の親子が受講しております。保護者同士の交流をとおして、情報交換や子育ての不安解消、

そして、親と子の係わりを学んでいただいております。

次の、親子ふれあい教室は、幼児や小学生が親子で一緒に体操や料理を体験することで、心身の発達を促し、家族の係わり方を学び、また、親同志の交流や情報交換を図りました。

体操では、バランスボールを使つての運動、うちわをつくりこれをつかった体操、調理では、まつり寿司やケーキごはん作りを体験しました。

ぽっぽちゃんクラブに、継続して参加できない親子のために、7月に各2回実施しました。

次の、親子体験教室では、ザリガニ釣り、工作、親子でクッキングなどの遊びや体験活動を通じて、参加者相互の交流を図り、親子のコミュニケーションを深める機会とするとともに、知識や技能を身につけました。

また、テーマについては、公民館で設定しますが、詳細は、参加者親子が自ら計画を立て、協力して準備することにより、創造力や自主性を育み、参加者同士や地域の方との繋がりを深め、仲間作りの場ともなりました。

次に、青少年教育でございます。

まず、通学合宿でございますが、大勢の地域ボランティアに支えられ、定着した通学合宿でございますが、今年で11回目を迎えます。

今年度は、6月23日から26日まで、根郷小、山王小、寺崎小の児童30名を対象に、学生ボランティアや地域のボランティアの協力をいただき実施いたしました。

この4日間、根郷地区の学校関係者、地域ボランティアの方々56名、中高校生の学生ボランティア11名、そして、教育委員会及び根郷公民館スタッフ11名、総勢約80名で見守り支えました。

「地域の子どもは、地域で育てる」と言われますが、子どもを地域の宝物として見守る、地域の皆さんのボランティア活動が、地域力の向上、将来のまちづくりにつながる力になるものと考えております。

次の、体験学習・ものづくりでは、小学生を対象として、4つの講座を開講しました。まず、「おもしろ科学実験隊」では、子どもたちの五感を刺激する実験をとおして、遊びながら新しい発見をし、科学の不思議さ・楽しさに触れてもらうことを目的として、7回に亘り開講しております。

また、「勾玉作りに挑戦」では、財団法人千葉県教育振興財団の協力により、本物の土器や石器に触れ、また、勾玉作り等を通じて縄文時代を偲び生活に触れる機会となりました。

「子ども水彩画教室」では、公民館利用グループであるワールサークル有志の協力により、色彩の効果を学び、描く対象の表現を豊かにすることを目的として、子どものやる気や創造力・自主性を養いました。

「子ども版画教室」では、専門の刷り師の先生から版画を学びながら、版画の制作に挑戦することで、学ぶことの楽しさ、自主性を養うことができました。

次の、佐倉っ子塾では、まず、「環境講座」でございますが、印旛沼の水辺環境について、講義や野外観察を行い、子ども達が自然に親しみ、自然を大切にすることを養うとともに、環境の重要性を認識することを目的として、水辺観察会、水辺探検ツアーを実施しました。

同じく、「創造力養成講座」では、工場見学等、地域の産業や文化を体験を含めて学習し、子どもの創造力や探求心などを育むことを目的として、京成電鉄の宗吾車両基地を見学しました。

次に、成人教育でございます。

まず、寿大学では、郷土愛や地域の中での連帯感を育み、生きがいを持って健康で充実した生活が送れるよう、健康の保持・増進、生活文化、地域の問題などの、様々な講座を、毎月、第3金曜日に年間10回開講し、交流を図っております。

大人の教遊びでございますが、普段、公民館に馴染みのない世代を対象に、講座を実施し、公民館への興味・関心を引き出すことを目的として企画したものでございます。

円周率や無理数、ピタゴラスの定理、平方根、黄金比など、数について楽しく学びました。

次の、佐倉学入門講座：近代の佐倉では、佐倉の先駆者などをテーマに、時代の変遷をわかりやすく学び、体験講座などを通じて、郷土の歴史について興味を持ってもらうことを目的として、5つの講座を予定しています。

9月には、歴史に埋もれている郷土の先駆者を市民に知ってもらうため、佐倉市出身で航空黎明(れいめい)期のパイロット飯沼金太郎にスポットを当てた講座を開催、民間パイロットの草分け的存在で、民間航空界の発展に貢献した先人の業績を学びました。講演後には、来場された金太郎のご親族を代表して、ご長男のごあいさつもあり、大変好評でした。

次の、根郷探訪では、佐倉の自然を散策しながら、野草を観察し、自然に親しむことにより、郷土の自然について関心を促すことを目的として、春と秋の2回、根郷地区内で野草観察会を実施しました。

千葉県自然観察指導員で佐倉野草の会の方を講師として迎え実施していますが、毎回定員を上回る申し込みがあり、同じコースを四季の違いを感じながら歩いてみたい、野草だけではなく、鳥や昆虫についてもガイドしてほしい等の意見も寄せられ、非常に好評でした。

以降の、団体育成、人材育成、広報事業、図書事業、その他の開放事業につきましても、それぞれの活動が停滞することのないように、公民館活動、また地域活動の充実に向けて取り組んでおります。

平成26年度 根郷公民館の事業についてですが、昨年度の事業評価におきまして、公民館運営審議会委員の皆様からいただきましたご意見を受けまして、一部見直しを考慮しております「寿大学」について、ご説明させていただきます。

寿大学につきましては、委員の皆様から「内容を充実させ、より理解を深められるような工夫が必要なのではないか。」との評価をいただきました。

そこで、来年度から、寿大学の年間の講座数を年間10講座から1講座増やし、寿大学の学生に限定せず、どなたでも参加できる公開講座として、来年度は、成人教育事業に位置付けられておりました「人権講座」を合同開催することを考えております。

なお、同様の取り組みは、しづ市民大学等でも公開講座として実施しているものでございます。

また、10月の社会見学につきましては、例年、参加者が100名を超える状況もあり、視察受け入れ側の対応にも限界があることから、視察地の選定にも苦慮しているのが現状でございます。来年度は、試みとして、現地到着後、従来のような100人規模の団体行動とせず、1班10人前後の班別行動とする社会見学を企画しております。今年度から、班内のコミュニケーションの活性化を図るため、毎回、講義前の30分間を、グループでの話し合いの時間に充てております。社会見学につきましては、事前に、各班で、視察エリア内での、視察ポイントの選定から事前学習、班別の行動計画の立案、会計処理、成果の発表まで、班内で協議・検討させることで、参加者相互の絆も深まり、お仕着せでなく、主体性のある社会見学として、より大きな成果が期待できるのではないかと思います。なお、各班ごとの社会見学の成果の発表の場として、寿大学の定期刊

行物「寿だより」に掲載することも含めまして、今後、寿大学運営委員会、寿だより編集委員会との協議・調整が必要となりますが、共に学ぶ交流の場としての寿大学の校風を尊重しつつ、前向きに検討してみたいと考えております。

以上でございます。

檜垣館長（志津公民館）

平成25年度の志津公民館事業の中間報告（9月末現在）について説明いたします。

他の公民館と同様に、家庭教育、青少年教育、成人教育、団体育成、広報活動で区分いたしております。

なお、今年度の事業については、計画どおり実施をいたしております。

家庭教育といたしましては、2歳児と母親を対象といたしまして、「おかあさんと遊ぼう」を年18回計画し、9回実施しております。第1回目当日に1組のキャンセルがありましたので29組となっております。親子遊びを通じて、子どもの成長を見守り、子と親がともに成長する「育自」を体験する講座として、

- ・ ①開講式、虫歯予防                      ②さつまいもの植え付け
- ・ ③ロープ遊び（電車ごっこ）他      ④手作りおもちゃ作り
- ・ ⑤七夕飾り                                  ⑥手形粘土
- ・ ⑦絵本の読み聞かせ                  ⑧リズム遊び・救急法
- ・ 延期：お父さんと一緒にヨガ      ⑨呼吸法ヨガ、祭寿司

等を行っております。（9/15日のお父さんと一緒にヨガは台風18号接近のため12/8に延期）

また、子どもと保護者を対象とした、「笑顔で子育て応援講座」は11/30に怒らないで子育てを考える、3/2こども茶道体験を実施する予定でございます。

青少年教育といたしましては、「佐倉っ子塾 志津子ども教室」として小学生を対象に、佐倉の地域素材をおりませた体験学習講座を前期・後期に分け実施いたしております。地域の人から学ぶことにより、「つくる楽しさ」「わかる喜び」「できる自信」を育むことを目指としまして、「子どもクッキング教室」「子ども手作り工房」「子ども自然教室」「子ども理科実験教室」の4つの事業を各2回実施いたしました。4講座の前期の参加合計数は143名となっております。

次の中学生と高校生を対象として、「ちょこボラ（公民館でちょこっとボランティア）」では、夏休み期間中に高校生2名が述べ17日間、公民館の体験を行っております。（佐倉西校3年男性7日・1年女性10日）

（9/19木：9:00～11:55 井野小学校6年生6名(男2・女4)職場体験）

成人教育といたしましては、「しづ市民大学」「佐倉学」「コミュニティ事業」となります。

しづ市民大学は4つの専科コース、「しづ学入門（定員44名）」、「地域健康学（定員40名）」、「くらしの情報学（定員45名）」、「おやじの食事学（定員25名）」で実施し、9月末までに各コース10回が終了しております。（全体での参加率は91%の状況でありました。）今後は各コースでの学習や公開講演会、閉講式での発表に向けての準備が行われてまいります。

また、公開講演会として、8/24に佐倉・城下町400年記念事業リレー講座「時代小説に描かれた佐倉」～野村胡堂・町人十萬石～（作家：高比良直美）、9/21に「地域の子育て・孫育て」として男女共同参画合同講演会(7アザールンク・ジヤン理事：村上誠)を実施しております。今後、しづ市民大学の学習からも公開講座を行ってまいります。

（8/24(土)10:00～12:00志津コミセン、社会教育課 市民大学140他113計253名）



9/21(土)13:30～15:40 志津コミセン。北総地区男女共同参画地域推進員 5 市 5 町、  
県男女共同参画センター、自治人権推進課 市民大学 125 他 70 計 195 人)

佐倉学では、佐倉学入門講座といたしまして、「井野長割遺跡を学ぶ」佐倉・城下町 400  
年記念事業では、「佐倉道を歩く」、地産地消「佐倉コミュニティカフェを学ぼう」を行  
ってまいります。

また、コミュニティ事業として、地域人材育成、地域活動の担い手づくりのさくら学  
び塾を公募市民講師により実施してまいります。

次は団体育成についてでございます。

志津公民館祭につきまして 10 月の開催ですが説明をさせていただきます。本年度で第 40  
回を迎え、10 月 18 日(金)から 20 日(日)の 3 日間実施をいたしました。志津公民館で  
活動をしているサークルが運営する実行委員会を組織し、有意義な学習成果の発表の場  
となり、さらに地域との交流の場となるため多くのサークルに参加を頂いております。  
今年度は 120 団体が参加し、約 2,500 人程度の来場となりました。

定期利用グループ運営研修会では、サークルに対して、活動の意義、運営のあり方な  
どの確認や意見交換、避難訓練を実施しております。

また、調理室利用者懇談会では、調理室を利用するサークルにつきましても、調理室  
の効果的な利用方法の再確認、意見交換、清掃作業を実施しております。

その他の団体に対しましては、「市子連(佐倉市子ども会育成連盟)の事務」や「志津ジュ  
ニア・リーダーズ・クラブの支援」「志津地区社会教育団体への援助」「相談・カウンセ  
リング等の支援」「公民館園芸ボランティア団体への支援」をおこなっております。

最後に、広報活動でございますが、公民館だより「しづ」を年間 3 回、志津地区各世  
帯に各 25,000 部の発行、また、公民館ホームページに掲載をしております。志津公民館  
事業の案内・情報などを提供することで、公民館への理解と認識を深めていただいております。  
また、各事業の参加募集も公民館だよりでおこなっているところでございます。

以上でございます。

平成 26 年度の志津公民館事業につきましては、これまでの実施事業を基本的に継続  
し、講座内容や実施時期等の必要な修正を行うことで実施してまいりたいと考えており  
ます。

引き続き、主催事業への参加を契機に、自主的なサークル活動が行われ、地域活動に  
繋がるよう支援を行ってまいります。

なお、平成 26 年度は市制施行 60 周年となること、女子美術大学との連携事業の検討  
を進めてまいります。

また、現在整備中の(仮称)志津公民館等複合施設整備事業が平成 27 年 12 月共用  
開始に向け、事業が進むことより、これらの対応を図ってまいります。

塚本副主査(臼井公民館)

(1) 平成 25 年度公民館事業中間報告

この 4 月～9 月までは家庭教育の講座と青少年の講座を主に実施しました。特に、夏  
の地域の小学生の居場所づくりの観点からも臼井・千代田地区の全小学校に家庭数分チ  
ラシ配布し、参加者を募集しております。また、臼井まちづくり資料展示室に自習席を  
設置して地域の子どもの居場所・学習場所を提供しました。

また、予定外ではありましたが臼井出身の長嶋茂雄氏が国民栄誉賞を受賞したこと  
にちなみ、このことを記念して「写真展」を市立美術館と当館でも生涯スポーツ課と共催  
の形で実施しております。

## ■家庭教育

◎おはなし会 対象 小学生から成人まで

期間 4/20, 5/11, 6/8, 7/13, 8/28, 9/14 の6回で延べ210人参加、通年実施（8月以外は、基本的には毎月第2土曜日、申し込み不要）

内容 すばなしと絵本のおはなし会です。本の世界に親しむとともにパネルシアター、テーブル人形劇を組み合わせて実施しています。また、リピーターも多く、特に夏の「こわいおはなし会」は人気です。

◎2・3歳児親子遊び 対象 2・3歳児とその保護者15組

期間 6/14、6/28、7/12（全3回金曜日）、延べ48人参加

内容 2・3歳児と保護者で参加する、絵本の読み聞かせや手遊びを通じて親子の絆を育みます。また、同年代の子どもや保護者同士の交流も図りました。

◎家庭教育共通講座 対象 小学生以上の保護者、希望者

期間 6月30日（日）、23人参加

内容 こどもがよりよく成長するために、家庭の働きやあり方などについて学ぶ講座です。今年は、日本とスペイン交流400周年にちなんで、講座「スペインを身近に感じよう」日本在住のスペイン出身の女性講師によるスペインと日本の家庭や習慣についての違いなどについての話を通してそのヒントを学びました。

## ■青少年教育

◎佐倉っ子塾共通講座「手作り講座」対象 小学4年～

期間 8月18日（日） 11人参加

内容 物づくりを体験しながら想像力を育むとともに幅広い年代との交流を図ろうというものです。今年は版画講座を実施しました。はがき大の大きさに参加者各自がデザインしたものを作りました。小学4年生～中学生までの参加がありました。

◎佐倉っ子塾共通講座「自然講座」対象 小学4年～6年生

期間 7月30日（火） 18人参加

内容 環境意識を育む「室内体験学習」としてペットボトルで水の透明度を測る透視度計を作成し、その使い方を学び、野外観察を屋形船から水辺の観察とパックテストによる水質測定を、場所を手繰川に移して水生生物などについても観察を行いました。なお、この事業は市環境保全課との共同事業です。

◎佐倉っ子塾共通講座「科学実験講座」対象 小学4年～6年生

期間 8月8日（木） 20人参加

内容 やさしい実験を体験しながら、科学的思考と創造力を育む講座です。今回は、「葉っぱが骨だけになっちゃうスケルトンリーフの実験」と題して講座を行いました。講師は、千葉大学農学部の大学生12人で、最初にアイスブレイキングで参加者をリラックスさせてから実験・観察をしながら植物の仕組みについて学びました。そして、ペットボトルとガラスビーズを材料に顕微鏡を作成してオオカナダモの細胞観察などを行いました。なお、千葉大生は青少年サポーターで、千葉県青少年協会の協力で実施しました。

◎佐倉っ子塾共通講座「ちょっといいところ見て歩き」対象 小学生～成人  
期間 7月24日（水）親子11組23人参加  
内容 地域の歴史などについて理解と関心を深める講座で、初めに、講師が臼井地区と鉄道についての講義を行った後、「車両基地見学会」として京成電鉄株式会社宗吾車両基地を親子で見学しました。基地内は京成電鉄社員案内で見学し、基地内に保存されている各種車両にも触れることができました。

◎バック・ステージ・ツアー 対象 小学4年～成人  
期間 8月7日（水）①午前の部 31人 参加  
②午後の部 19人 参加  
内容 午前午後の部共通で、会場の市民音楽ホールについての説明後、参加者は舞台、音響、照明の各スタッフに分かれて仕事を担当・体験しました。自分の担当が終わると交代して全部の仕事を体験しました。

#### ■成人教育

◎長嶋茂雄写真展 対象 成人  
期間 5月17日（金）～26日（日）1,607人来場  
内容 臼井地区出身の佐倉市名誉市民 長嶋茂雄さんの国民栄誉賞を祝して写真展が開催され、市立美術館で行った後に臼井公民館を会場に行われました。佐倉市に寄贈された写真パネルを中心にした展示で、生涯スポーツ課との共催事業です。

#### ■広報・展示活動

◎臼井公民館だより発行  
対象 主に臼井・千代田地区  
時期 7月発行（600部）  
内容 臼井公民館事業の紹介と関連の情報を提供しています。  
（参考資料として配布）

#### (2) 平成26年度公民館事業に向けて

平成25年度事業を半年間実施してまいりましたが、今年度の青少年事業では応募状況やアンケートなどからも手ごたえが感じられておりますので、より多くの希望者が参加できるような工夫を来年度の企画の中で検討していきたいと考えております。さらに、家庭教育の分野でもさらに参加しやすい時期や日程などについても検討をいたします。

また、今年度後半に多く実施される成人教育講座についてもその実施状況やアンケートの状況を見ながらニーズを取り込むとともに充実した講座について検討を続けていく予定です。

以上でございます。

#### 【質疑等】

慶田委員長

ただ今、各公民館から平成25年度の上半期の報告と平成26年度の事業計画について説明がありましたがご質問等ありますか？

委員

各公民館で出している広報紙だがばらつきがあるが、それぞれの公民館で対象となる人口や世帯数を把握しているのか？わかれば教えていただきたい。志津公民館だけが出版数が多いように思える。

小林館長

志津地区は 75,000 人を対象としている。

檜垣館長

志津地区を対象に新聞折り込みをしている。新聞折り込みをしているので実際の世帯数とは若干違いますが各販売店に 25,000 部と各公民館等に配布している。

委員

募集してなかなか人が集まらないという悩みがあると思うが、PR がかなり重要だと考えている。それぞれの館が良いものを作成しているが、難しい話かもしれないが、他の館の募集記事などでできれば掲載できないか？地区の人だけでなく他の地区の人も参加できるのではないか。また、各地区でどのくらいのバラつきがあるのか？

小林館長

本日お配りした「公民館のまとめ」の 3 ページをご覧くださいと、地区の人口を載せてある。

委員

公民館がここの中のどの位の人を対象にしているのかは分からないか？

小林館長

各館が各地区の人数を対象に事業を行っている。

委員

関連質問だが、中央公民館の市民カレッジの在籍数をみると 100 人定員で 1 年目で 10 人位が減り、4 学年目になると 2 割くらいが減っているがこの理由は何なのか？

小林館長

今年もそうだが、理由としては平均年齢が上がりその親の介護にかなりの苦労があり、介護を理由に退学している方が少しずつ増えてきている。今年の傾向は、定年が 60 歳から 65 歳になったことで市民カレッジには入学はしたが仕事を続けている方もいたり、仕事に戻られる方もいる。

委員

市民カレッジの倍率はどのくらいになるのか？

小林館長

2・3 年前までは、100 名定員のところ 160 人位の応募があったが、今年度は 100 名定員のところ 120 名の応募があった。応募が減った要因として考えられることは、定年の引上げと臼井にできた「コミュニティカレッジ」が考えられる。

委員

入学後の欠員となったところに入りたくても入れなかった方の編入は考えられないか？

小林館長

退学者が増えているので制度の見直しを含め今年度から検討を始めている。

委員

事業の対象・定員のことだが、地域的なものもあるかと考えるが、募集のやり方が少ないのではないか？講座の内容が社会のニーズに合っているのか？地域の要望に答えているのか？講座の見直し等が必要だと思うが。講座によっては参加人数が少なく中止を考えてもいいと思うが、講座のあり方・考え方・地域地域に何が必要なのか・見直しも含め定員どおりに集まらない根拠、それと関連するのだが平成26年度の事業構想を話されたが、防災関連も地域で非常に大事で自助・共助・公助それから地域コミュニティの問題に関わってくる。防災事業が公民館に入るのか？これからは現代社会のニーズに講座企画をするのが公民館だと思うがどう考えているのか？

小林館長

講座の人数だが、定員に満たない事業もあり担当となぜ集まらないかという話し合いはしている。講座の人数や内容に見直す等の方向で進めていきたい。防災関係ですが現在市防災担当課でするのが良いのか、公民館でするのが良いのか模索しているところである。

委員

募集についてだが、公民館だよりは各館で発行されているのか？あと、もう少し広報さくらを活用されてはどうか？

小林館長

広報さくらも活用はしている。広報で募集していることの方が多い。館によってはあえて直接学校等に配布を依頼している。どちらが有効かは各館が判断しているのが現状である。

委員

参加者を集めるのが大変の様だがホームページがあるのは中央公民館だけなのか？

小林館長

ホームページは全館ある。ただ、ホームページを見れる環境にない方もいる。何が有効なのかは各館で判断している。事業によってチラシを配布したり、配布も館での配布や内容によって対象の方が多く集まるところに配布依頼等をしている。

委員

いくつかの講座の様子を見させていただいたが、参加者が非常に熱心に受講されていると痛感したが、同時に講座を学ぶというより居場所を求めているというか交流を求めているというような傾向も強くなってきていると感じる。サークルにしろ講座にしろ離れたところで生きがいを感じていると見受けられるがそこはどのように捉えているの

か？

小林館長

公民館の役割にサークルへの貸館事業もある。同時に事業も行い大きく分けて2通りの事業を行っている。サークル活動の活性化を支える中で地域活動で活躍の場の一つとして公民館を利用していただいていると考えている。

委員

市民カレッジの人員の件だが、1学年の人数が96人、2学年になると10名程少なくなる。1・2年は2年コース、3・4年は専攻コースとなるあたりがネックになり3・4年になると来なくなる方がいるのではないかと。逆に4学年になると去年の3学年の方が83名で今年が80名なのは移動しただけという感じがしてコースの区切りが問題ではないのか。

小林館長

減っている現状は危惧している。いろいろと変えていかなければいけないと考えている。退学する際は理由を聞いている。体調を理由にする方も多いが、家庭の事情というのも最近増えてきている現状である。

委員

たくさんの方が応募されるという事はいいことだと思うが、数というのは減っても多いか少ないかというだけで少なければ少ないなりにやるという良さもあるのではないかと。

小林館長

ただ、100名という枠の中で最大限学んでいただくために募集をかけている。公開抽選をして当選して初めて入学できるので、はずれた方は当然いるわけですがそこを考えると折角学ぶ機会を得たわけですので、しっかり4年間学んでいただいて卒業をしていただきたい。そして、卒業後は公募の条件である地域活動を継続していただきたいと考えている。また、その中で仲間作りをしていただき、まちづくりをしていただきたいと考えている。できる限り卒業までいて欲しいという思いでやっている。復学等についても考えられるわけですが、制度的にも色々変えるように検討していきたい。

委員

4年制となっているが2年以降も更に学びたい人はという事か？学びたくないという事で辞めているのではないかと？

小林館長

いろいろとあるとは思いますが、殆どの方は4年制という事を理解して入ってきているので、働くことになったとか家庭の事情でということを経由にされる方が多く、2年制で良いと考えている方は少ないと考えている。4年制のプログラムを組んでいる。是非4年間学んで欲しいと考えている。1・2年は知識の吸収で殆どが終わってしまうが、3・4年は活動が組込まれてくるカリキュラムになっている。しっかり学んで卒業をして欲しいと考えている。

## 委員

毎回カレッジの問題は提起しているが、前回も見直すと言いつても今回も見直すと思うが、今、出た意見が考えてこの人数で減るならば、基礎は2年で専門課程が2年+3年で定員を80人にするとか、統計的に2割くらいが落ちるならばそれで検討をしていただきたい。民間であれば研修や講座は定員一杯を何とか集める。いわゆる費用と効果である。定員を15名や20名にしておいて5~6名しか集まらない講座が結構あるという事なら、そういった観点に立って、同じ講座で講師を頼むのであれば適正な方を集めるのが全うな考え方ではないか。募集の仕方を考えるか、講座の内容を改善するか検討していただきたい。

## 小林館長

公民館が行っている事業では、募集人員と効果的な部分、効果というのは当然人数が来なければ効果が薄いと見て良いかと思うが、集める努力は更にしていきたい。

---

## 休 憩

---

## 慶田委員長

それでは引続き（2）平成25年度事業評価について説明をお願いします。

### （2）平成25年度事業評価について

社会教育課：江波戸課長

「佐倉市公民館事業評価 公民館運営審議会 所見シート」をご覧ください。公民館事業評価だが、平成23年度から試行で始めさせていただいております。今年で3年目になります。来年度からは社会教育課から公民館が母体になる。初年度の23年度は中央公民館・和田公民館・弥富公民館が家庭教育・青少年教育について評価いただき、昨年度は根郷公民館・志津公民館・臼井公民館が成人教育・団体育成について評価いただきました。今年度についてですが、平成25年度中間報告でご説明があった中から、中央公民館・和田公民館・弥富公民館が成人教育・団体育成の中から1ジャンル。根郷公民館・志津公民館・臼井公民館が家庭教育・青少年教育の中から1ジャンルを選択していただき、次回の第3回公民館運営審議会平成26年2月24日月曜日に全公民館長による運営方針と各担当者による事例発表をさせていただきます。委員の皆様には昨年度と同様にお手元の記入例のとおり記入いただきまして、名前を記入の上、ジャンル発表事例の所見・総合評価の記入をお願いしたい。評価をいただきましたものについては、次年度の事業実施に向け課題・検討を行いまして、事務局で内容をまとめさせていただいた後、平成26年度の公民館運営審議会での報告、並びに公民館のホームページでの公開を予定しております。

## 4 その他

- ・第65回千葉県公民館研究大会について（11/16）
- ・志津公民館建替進捗状況の説明（社会教育課長）

## 5 閉 会 16：30